

ふれあい通学合宿



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちが家族から離れ、他校の子供と共同で生活し日常的な生活体験を自分たちの力でいうこととをとおして、子供たちの社会性・自主性などの「生きていく力」の育成を目指す。

○ 実施期間

平成31年2月27日（水）～平成31年3月3日（日）4泊5日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生 52名／50名

○ 活動プログラム

		2/27（水）	2/28（木）	3/1（金）	3/2（土）	3/3（日）
朝	6:00 6:50 7:15 7:30 9:00 10:00		起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝のつどい・朝食 学習・読書 クラフトづくり	起床・洗面 朝のつどい・朝食 部屋の片付け 10:00 自然の家発
昼	12:00 13:00 16:10 16:45		学校（給食） 各小学校出発 自然の家着	学校（給食） 各小学校出発 自然の家着	昼食（食堂） レクリエーション 野外炊事 カレーライス・ピザ	
夕	17:00 17:15 17:15 18:30 19:30 20:00 21:30		タベのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	タベのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	お別れパーティ 入浴 全体の振り返り 荷物をまとめる 就寝	

2. 活動の様子

<2月27日（水）>

室戸市内5つの小学校の5・6年生52名が参加してふれあい通学合宿がスタートした。水曜日スタートということで子供たちが自然の家に着いたのは午後5時前であった。第1集会室でオリエンテーションを行い、ふれあい通学合宿のねらいや目標などを確認した。そして、アイスブレイキングを行い、他校の子供たちとの交流を深めた。初めて参加の子供たちにとっては良い活動にな

り緊張していた表情が和らぐ姿が見られた。その後の夕食でも班ごとに食べて絆を深めるものとなった。夕食後、子供たち全員が第1集会室で宿題を行った。静かに集中して取り組んでいた。宿泊棟での班会で健康観察や一日の振り返りを行った。明日から登校なので子供たちは午後10時には布団に入り眠った。まだみんなに打ち解けていない子供の緊張した表情が気になった。

<2月28日(木)>



朝6時に起床し、布団の整頓をした後、午前6時40分から朝食をとった。普段、子供たちは早い時間帯に朝食を食べる経験がないので心配をしていた。しかし、子供たちは決めた時間内に班ごとに揃って食事をしていた。野菜はあまりとらなくて量も少なめであった。朝ごはんをしっかり食べることやバランスの良い食事をとることに課題が見られた。

朝食後、午前7時15分に自然の家のバスで登校した。子供たちは、初めて、自然の家から学校へ登校することになったが、ボランティアリーダーのサポートで無事に登校することができた。登下校の際、ボランティアリーダーと一緒に登校したり、学校へ迎えに行ったりして交通安全面に配慮した。子供たちはボランティアリーダーと一緒に登校することで喜びや安心を感じていたようである。自然の家から学校への登下校は3日間だったが、子供たちが元気に通学するために就寝時間を守るように注意を促した。子供たちは、就寝時間のことをしっかり守ろうとする姿が見られていた。



<3月1日(金)>

学校から下校後、夕食をとって学習に取り組んだ。学習の目標は、主に学校から出されている宿題を自分の力で集中してやること、学習習慣を身に付けることである。そのために、毎日1時間の学習時間を設けた。子供たちは静かに集中して、自分のペースでコツコツと取り組んでいた。自学自習の習慣を身に付けさせるためにボランティアリーダーの支援は、どんな問題もまず自分で考えさせて問題を解かせることとした。子どもたちは、教科書や辞書などを使って問題を解く姿が見られた。宿題が終わった後、ボランティアリーダーが点検をしてアドバイスをを行った。早く終わった子供には自主学習に取り組むよう声掛けしたり、読書をさせたりした。子供たちの中には、職員やボランティアリーダーに課題を出してもらい必死に解こうとしている姿も見られた。まわりの友だちがまだ宿題をしているので自分もがんばらなければという気持



ちで取り組んでいるように見られた。ただ、学習をしている子供を見ていて、鉛筆の持ち方や正しい学習姿勢などが気になった。

<3月2日(土)>



休日のため、施設で流木クラフトやレクリエーション、野外炊事の活動に取り組んだ。午前中は、流木クラフトを行った。流木を三種類のペーパーで磨きキーホルダーを作った。天気が良かったので、展示棟の駐車場で室戸岬を眺めながら行った。4日目になり他校の友だちと楽しそうに話をしながら取り組んでいる姿が多く見られだした。子供たちは最後まで流木を磨き、一人ひとり特徴のあるキーホルダーが完成した。子供たちに「素敵なキーホルダーができたね。」と声

をかけると、にっこり笑ってうれしそうな表情を見せてくれた。

午後からは、ボランティアリーダーとレクリエーションをしたり、野外炊事でカレーライスやピザを作ったりした。お別れパーティはキャンドルファイアを行った。野外炊事では、仕事の役割を決めて取り組ませた。家庭であまり刃物を使ったことがないということを知っていたので心配していたが、ボランティアリーダーが声かけをしてくれたので楽しそうに野菜の皮むきなどをしていった。自分たちの力でがんばって作ったカレーライスとピザだったので、「美味しい。美味しい。」と言いながら食べていた。翌日にバスケットボールの試合があるため、6名の子供たちがキャンドルファイア後に帰宅した。正面広場に全員が集まり、友だちの名前を呼びながら手を振り見送った。子供たちは活動を通して、友だちの素晴らしさや大切さを感じることができたようだった。



<3月3日(日)>

最終日、朝起きてから自分が使った部屋の掃除や片付けを行った。使ったシーツや掛け布団を友だちと協力しながら行っていた。4泊5日の交流で絆が深まり、友だちに気軽に「手伝おうか。」などの声をかけながら行っていた。掃除も、「使う前よりもきれいに」を心がけながら隅々まで行っていた。掃除終了後、第1集会室に集まり、ふれあい通学合宿の振り返りを行った。4泊5日の生活を振り返ったり、自分の成長を発表したりしてみんなで共有した。子供たちのほとんどが、新しい友だちができた喜びや自分のできるが増えたことなどを発表していた。バスに乗って帰る時、新しい友だちやボランティアリーダーとの別れを惜しむ姿が見られた。5年生の子供たちの中には、来年もふれあい通学合宿に参加したいと言っていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 事業に参加して自分が成長した気がします。最初は人を会話することすらダメだったけど、この事業に参加して自分から初めて会う人にまで話をすることができました。中学生になっても新しい友だちに自分から進んで話しかけることができると思います。
- ・ 挨拶を自分からできるようになった。朝、目覚まし時計なしで起きられた。自分のことは自分でできるようになった。友だちと仲良くできた。
- ・ いろいろな活動をして自信をもって他の学校の子に話しかけることができました。
- ・ レクリエーションや野外炊事では、班のみんなと協力してできた。
- ・ 他の学校の子と一緒にしゃべったり遊んだりできてうれしかったです。
- ・ 全部楽しかったので来年も行きたいと思った。
- ・ 楽しかったので、高校生になったらボランティアとして通学合宿に参加したいです。



○ 事業の成果

- ・ 本事業に参加した子供の学校のうちほとんどの学校が少人数学級の子供である。今回は、室戸市内の5校の小学校から52名参加して行うことができた。たくさんの子供たちが参加してくれたおかげで、他校のいろいろな友だちと交流を深めることができた。
- ・ 子供たちの中には人見知りをしてコミュニケーションをとるのが苦手な子供たちもいたが、4泊5日間共に生活を送ることで、他者と関わることへの苦手意識がとれて、最終日には気軽に会話できるようになり子供同士の絆が深まった。これからも、子供たちがかわり合い、より良い関係が築ける活動を考えていきたい。
- ・ 子供たち自ら規則正しい生活を送らせるために、日々の活動時間（就寝時間、学習時間等）を固定させて取り組んだ。学習時間内に宿題などが終わらない子供は、自ら学習時間が始まる前に第1集会室に行って宿題に取り組んでいた。自分の課題を考えて、それを解決する方法を見つけていた。生きる力が育んできている。

○ 事業の課題

- ・ 疲れが出たのか通学合宿に参加した子供で次の日（月曜日）に学校を欠席したと学校から連絡があった。来年度は、一週間行うのであれば、日曜日始まり土曜日終わりの日程で考えていく必要がある。
- ・ ふれあい通学合宿で身についた生活習慣を家庭や学校に帰っても生かすことができるように各関係機関と連絡を密に取り合いながら事業を進めていかなければならない。